

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	春のうた 1時間(読) 教:4上p ~ 1 表現に着目しながら描かれている情景を想像したり共感したりして、工夫して音読することができる。【知:ク、読:エ】	①「春のうた」を音読し、感想やおもしろい表現について出し合う。 ②擬態語や擬声語、繰り返しなどの表現に着目し、描かれている様子を想像しながら、工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○情景について具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで描かれた情景を想像し、今までの学習を生かして共感しながら音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉でつながる みんなで遊ぼう 2時間(話聞) 教:4上p14 ~ 15 遊びを題材にした話し合いを通して、互いの考えを認め合うことができる。【知:ア、イ、話:エ、オ】	①学習課題と活動の進め方を確認する。 ②ペアになり、教科書に提示されたものの中から知っている遊びについて、遊び方を説明し合う。 ③二人とも知らない遊びの遊び方を予想して話し合ったり、他のペアの友達に聞いたりする。 ④学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 話 ○相手を見て話したり聞いたりすることができる。[知・技(1)イ] 学 ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことができる。[思・判・表A(1)エ] 学 ○互いの意見の共通点や相違点に着目することができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○積極的に知っていることをもとに共通点や相違点を見つけ、学習課題に沿って話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1 イメージをふくらませて読もう 白いぼうし 7時間(読) 教:4上p16 ~ 25 場面ごとの様子や人物の行動を捉え、物語を想像しながら読むことができる。【知:ク、読:イ、エ、カ、イ】	①学習のめあてを確認する。 ②全文を通読し、不思議に思ったことなどを出し合う。 ③場面ごとの様子を表に整理し、出来事が起こったわけを考える。 ④不思議は出来事に焦点化して交流する。 ⑤色や音、においなどの感覚語の表現に着目して、受けるイメージをつかむ。 ⑥読んで理解したことを生かして音読する。 ⑦読んで感想を伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] 学 ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○表現に着目しながら、進んで物語のイメージを捉えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	みんなに伝えよう 見つけたよ、友達の良いところ 2時間(話聞) 教:4上p26 ~ 27 友達との関わりの中から話題を決め、話の中心や聞き手を意識して話すとともに、話し手が伝えたい内容の中心を捉えて聞くことができる。【知:イ、キ、話:エ、ウ、エ】	①モデル文を読み、友達の良いところや関わる出来事についてスピーチするという課題をつかむ。 ②話す事柄を決め、スピーチの組み立て(話の中心、出来事(エピソード)、自分の思いや理由)を考える。 ③抑揚や強弱、間の取り方などを工夫しながら、友達の良いところを話す。 ④友達のスピーチについて自分と比べながら聞き、感想を伝えたり質問したりする。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。[知・技(1)イ] 話 ○丁寧な言葉を使うことができる。[知・技(1)キ] 学 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表A(1)ア] 学 ○言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。[思・判・表A(1)ウ] 学 ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。[思・判・表A(1)エ] 学 ○進んで聞き手に伝わるよう話し方を工夫し、学習課題に沿って意欲的に話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	<p>言葉のいずみ1 漢字辞典の使い方 3時間(知技) 教:4上p28~31</p> <p>漢字辞典の使い方を知り、漢字の部首や画数などについて理解することができる。【知】: イ、ウ</p>	<p>①漢字辞典を使うと、部首、画数、読み方、成り立ち、意味などを調べることができることを知る。</p> <p>②漢字の主な部首について知る。</p> <p>③「部首索引」「音訓索引」「総画索引」を使った調べ方を知り、漢字辞典を使って漢字を調べる練習をする。</p> <p>④教科書の問題などを使って、漢字の読み方や部首、画数を調べることを通して、漢字辞典に慣れる。</p>	<p>知 ○辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ]</p> <p>○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。[知・技(3)ウ]</p> <p>学 ○進んで漢字辞典の使い方を理解し、学習課題に沿って漢字辞典で調べようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>きせつのだより(春) 1時間(書) 教:4上p32~33</p> <p>春の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、春を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】: オ、【書】: オ、ウ</p>	<p>①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、春の気象や様子を表す言葉を知る。</p> <p>②春を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。</p>	<p>知 ○様子を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ]</p> <p>書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ]</p> <p>学 ○進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
5月	<p>調べよう まとめよう 「百科事典」を使って、調べること を決めよう 3時間(知技 読) 教:4上p34~35</p> <p>百科事典を使い、具体的なテーマの設定の仕方をつかむことができる。【知】: イ、オ、 【読】: ウ、ウ</p>	<p>①百科事典を使った調べ方を確かめ、大きなテーマを引く。</p> <p>②調べたい具体的なテーマに絞り込む。</p> <p>③他の本やインターネットなども参考にしながら、調べたことをまとめる。</p> <p>④調べて分かったことを発表する。</p>	<p>知 ○辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ]</p> <p>○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。[知・技(3)オ]</p> <p>読 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。[思・判・表 C(1)ウ]</p> <p>学 ○進んで百科事典を活用し、学習課題に沿って目的に応じた必要な情報を得ようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>2 説明のしかたを考えながら読もう アメンボはにん者か 6時間(読) 教:4上p36~45</p> <p>文章を要約したり、説明の仕方を確かめたりすることで、筆者の考えとそれを支える理由と事例との関係を捉えることができる。【知】: ア、【読】: ア、ウ、カ、ア</p>	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。</p> <p>②知っていることや驚いたことなどを出し合う。</p> <p>③形式段落に番号を付け、文章全体を三つに分ける。</p> <p>④意味段落ごとに要点(中心となる語や文)をまとめる。</p> <p>⑤文章全体を短く要約する。</p> <p>⑥事例の役割を確かめ、文章構造図を書く。</p> <p>⑦題名と筆者の考えとのつながりについて自分の考えをもち、説明し合う。</p> <p>⑧学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア]</p> <p>読 ○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア]</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。[思・判・表 C(1)ウ]</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>学 ○進んで筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係を考え、学習課題に沿って自分の考えをもとうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	漢字の広場 1時間(知技) 教:4上p46 4年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。【知:工】	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで4年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	3年生で習った漢字言葉をつないで文を作ろう 1時間(書) 教:4上p47 3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。【知:工、書:工】	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	文章の書き方・まとめ方新聞を知ろう、作ろう 4時間(書) 教:4上p48～51 書きたいことが明確な記事になるように、内容の中心やまとまりを意識して書くことができる。【知:カ、書:ア、イ、ア】	①例示された新聞を見て、つくりや記事の表し方について出し合う。 ②メモをもとに記事にする方法や見出しを書くための観点と方法を知る。 ③身近なことから伝えたいことを決め、記事と見出しを考え、はがき程度の大きさの記事にする。 ④記事をグループでまとめ、一つの新聞に仕上げる。 ⑤新聞を読み合い、記事や見出しの付け方などについて、感想をグループ同士で伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○主語と述語との関係、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] 学 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思・判・表B(1)イ] 学 ○進んで分かりやすい記事になるように、学習課題に沿って内容のまとまりや構成を考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	言葉を聞き取ろうメモを取りながら聞こう 2時間(話聞) 教:4上p52～53 必要なことを聞き取り、工夫して書き留めることができる。【知:イ、話:工】	①提示された文章をもとに先生の話聞き、メモを取る。 ②自分のメモと提示されたメモ例とを比べ、メモの取り方の工夫について理解する。 ③先生の話聞きながらもう一度メモを取る。 ④友達のメモと見比べ、上手なメモの取り方を話し合う。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○必要な語句の書き留め方を理解することができる。[知・技(2)イ] 話 ○必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。[思・判・表A(1)エ] 学 ○進んで必要な情報の聞き取り方を捉え、これまでの学習を生かして、必要な事柄を判断しながら聞こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	<p>3 ほうこくしたいことを新聞にまとめて書こう 見学したことを新聞にまとめよう 10時間(書)</p> <p>教：4上p54～61</p> <p>見学したことをもとに情報を整理するとともに、見出しや割り付けを考え、読み手に分かりやすくなるよう、工夫して新聞を作ることができる。【知】：イ、【審】：ア、イ、オ、ア</p>	<p>①学習のめあてを確かめ、新聞作りの手順や読み手に伝わりやすい記事を書くという見通しをもつ。</p> <p>②取材の計画を立て「取材カード」にまとめる。</p> <p>③取材の方法を考え、実際にインタビューなどの取材を行うための練習をする。</p> <p>④書いた「取材カード」を分類し、記事カードに整理する。</p> <p>⑤新聞の作り方を知り、記事の配置や分量、写真や表の大きさや位置を考え、割り付けをする。</p> <p>⑥記事の下書きをし、それぞれの見出しや資料を考える。</p> <p>⑦割り付けをもとに清書するとともに、写真や資料などを貼り、記事を完成させる。</p> <p>⑧新聞を読み合い、記事の分かりやすさや見出し、割り付けの工夫などについて良いところを伝え合う。</p> <p>⑨学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。【知・技(2)イ】</p> <p>書 ○相手や目的を意識して、書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思・判・表 B(1)ア】</p> <p>○書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えることができる。【思・判・表 B(1)イ】</p> <p>○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。【思・判・表 B(1)オ】</p> <p>学 ○進んで読み手を意識して書き方を工夫し、学習課題に沿って新聞にまとめようとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
6月	<p>言葉をおくろう お礼状を書こう 5時間(書)</p> <p>教：4上p62～63</p> <p>手紙の形式を捉え、目的を意識して気持ちが伝わるように、お礼状を書くことができる。【知】：主、【審】：イ、エ、イ</p>	<p>①学習の目的とめあてをつかむ。</p> <p>②お礼状の基本的な形式を押さえ、学習の見通しをもつ。</p> <p>③お礼状を送る相手に伝えたいことを決め、ノートに書き出して整理する。</p> <p>④ノートに書いたことをもとに、形式に従ってお礼状の下書きを書く。</p> <p>⑤書いた手紙を読み合い、間違いや分かりにくいところを正したり、宛名を書いたりする。</p> <p>⑥清書し、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。【知・技(1)キ】</p> <p>書 ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって、文章の構成を考えることができる。【思・判・表 B(1)イ】</p> <p>○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。【思・判・表 B(1)エ】</p> <p>学 ○進んで書式を確かめながら、学習課題に沿って気持ちが伝わるようなお礼状を書こうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>季節のたより(夏) 1時間(書)</p> <p>教：4上p64～65</p> <p>夏の気象や様子を表す言葉や俳句に興味をもち、夏を感じた時の様子が伝わるように、詩に表すことができる。【知】：オ、【審】：オ、ウ</p>	<p>①教科書の写真を見たり俳句を読んだりして、夏の気象や様子を表す言葉を知る。</p> <p>②夏を感じた経験やもの、言葉をもとに、その様子がよく分かるよう、詩を書く。</p>	<p>知 ○様子を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。【知・技(1)オ】</p> <p>書 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。【思・判・表 B(1)オ】</p> <p>学 ○進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、詩に表そうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	<p>4表にしてくらべながら読もう 手で食べる、はして食べる 6時間(読) 教：4上p66～73</p> <p>意味段落ごとの要点をつかみ、事例を比べて確かめることで、筆者の考えをつかみ、互いの感想を伝え合うことができる。知：カ、イ、書：ア、オ、カ、ア</p>	<p>①全文を読み、日常の食事について考える。 ②文章の内容の大体を捉える。 ③文章全体を意味段落のまとまりで分け、それぞれの要点をまとめる。 ④単元の学習の見通しをもつ。 ⑤事例を比べて考え、表にまとめて、それぞれの違いを読み取る。 ⑥筆者の考えを、それを支える二つの事例をもとに確かめる。 ⑦読んで理解したことをもとに、自分の考えを本文の叙述を引用してノートにまとめ、話し合う。 ⑧学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] ○比較の仕方を理解し使うことができる。[知・技(2)イ] 読 ○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで筆者の考えをつかみ、学習課題に沿って事例を比べながら読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>調べたことを書こう 文化のちがいを調べよう 8時間(書) 教：4上p74～77</p> <p>調べた材料をもとに、内容のまとまりで段落を作り、比べて分かったことや自分の考えとの関係に注意しながら、構成を考えて文章を書くことができる。知：カ、書：ア、イ、ウ</p>	<p>①世界各国の生活や文化をテーマに、調べたいことを出し合い、調べることを決める。 ②例文を読み紹介するための文章の書き方を知る。 ③調べて分かったことをメモに書き出して表にまとめ、比べて分かったことや自分の考えを書く。 ④内容のまとまりや文章構成を考える。 ⑤組み立て表をもとに文章を書く。 ⑥友達と助言し合い、推敲する。 ⑦友達と読み合い、内容や構成の良かったところなど、感想を伝え合う。 ⑧学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○段落の役割について理解することができる。[知・技(1)カ] 書 ○集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] ○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ] ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ウ] 学 ○進んで事例を比べて違いなどを見出し、学習課題に沿ってまとまりを考えながら文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
7月	<p>「根拠」と「理由」を区べしよう 自分の意見を組み立てて説明しよう 3時間(知技 話聞 読) 教：4上p78～83</p> <p>考えと理由・根拠の関係を明らかにして自分の意見を組み立て、説明し合うことができる。知：ア、話：オ、読：オ</p>	<p>①相手に理解してもらうためのコツとして、「根拠・理由・意見」の関係をつかむ。 ②物語の登場人物について、根拠・理由を意識して説得力のある意見を伝え合う。 ③描かれていることを根拠に自分の考えを説明する。</p>	<p>知 ○考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 話 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。[思・判・表 A(1)オ] 読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 学 ○進んで情報と情報との関係を理解しようとし、学習課題に沿って考えとそれを支える理由や事例との関係について考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
7月	<p>言葉を受け止めよう</p> <p>言葉のいろいろな表情</p> <p>2時間(話聞)</p> <p>教: 4上p84～85</p> <p>相手とより良い関係を築くための話し方や態度を考えることができる。【知: ア、イ、 語: オ</p>	<p>①教科書に例示された文を読み、それぞれどんな気持ちが伝わるかを考える。</p> <p>②提示された短い会話文について、伝わり方を出し合う。</p> <p>③言い方によって、受け手の印象が違うことについて確かめ、どのような態度や言い方にすれば相手の気持ちに立てるか話し合う。</p> <p>④学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。【知・技(1)ア】</p> <p>○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。【知・技(1)イ】</p> <p>話 ○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。【思・判・表 A(1)オ】</p> <p>学 ○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>3年生で習った漢字</p> <p>言葉をつないで文を作ろう</p> <p>1時間(書)</p> <p>教: 4上p86</p> <p>3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。 【知: 工、語: エ</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。</p> <p>②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。</p> <p>③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。</p> <p>④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。【知・技(1)エ】</p> <p>書 ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。【思・判・表 B(1)エ】</p> <p>学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>読書に親しもう</p> <p>物語のみ力をしようかいしよう</p> <p>ポレポレ</p> <p>読書の部屋</p> <p>6時間(知技 読)</p> <p>教: 4上p87～105</p> <p>物語を楽しんで読み、作品や登場人物の魅力について交流することで、読書の幅を広げることができる。【知: イ、オ、語: イ、カ、イ</p>	<p>①活動の見通しをもち、全文を読む。</p> <p>②読んで気付いたことを自由に書き出す。</p> <p>③書き出したことをもとにグループで話し合い、観点別に整理する。</p> <p>④発表原稿を作成する。</p> <p>⑤発表の練習をして、グループ代表を決める。</p> <p>⑥発表会を行い、大賞を決めた理由を伝える。</p> <p>⑦読書カードをまとめ、交流する。</p>	<p>知 ○引用の仕方を理解し使うことができる。【知・技(2)イ】</p> <p>○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。【知・技(3)オ】</p> <p>読 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。【思・判・表 C(1)イ】</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思・判・表 C(1)カ】</p> <p>学 ○積極的に幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って読書の楽しさやよさを感じながら読もうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
9月	<p>詩を味わおう</p> <p>かぼちゃのつるが</p> <p>ふしぎ</p> <p>2時間(読)</p> <p>教: 4上p106～107</p> <p>情景や作者の思いを想像し、感じ取ったことをもとに工夫して音読するとともに、思ったことを伝え合い、感じ方の違いに気付くことができる。【知: ク、語: 工、カ</p>	<p>①「かぼちゃのつるが」の情景を想像して、表現の工夫について出し合い、読み取ったことを生かして音読する。</p> <p>②「ふしぎ」の内容のおもしろさや作者の思いについて出し合い、読み取ったことを生かして音読したり連をつくらする。</p>	<p>知 ○構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。【知・技(1)ク】</p> <p>読 ○情景について、具体的に想像することができる。【思・判・表 C(1)エ】</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。【思・判・表 C(1)カ】</p> <p>学 ○進んで表現の工夫や感じ方の違いに気付き、学習課題に沿って詩を読もうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	<p>みんなに伝えよう こんなに成長したよ 2時間(話聞) 教: 4上p110～111</p> <p>自身を振り返って話題を決め、きっかけとなる出来事や思いなどをもとに構成を考え、聞き手に伝わるよう、抑揚や強弱などを工夫して話すことができる。【知: イ、聞: ア、イ、ウ】</p>	<p>①モデル文を読み、自分が成長したと思うことについてスピーチするという課題をつかむ。 ②話す事柄を決め、スピーチの組み立て(話題の中心、きっかけとなる出来事や思い)を考える。 ③抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して、自分の成長について話す。 ④友達のスピーチについて、自分と比べながら感想を伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。【知・技(1)イ】</p> <p>話 ○日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。【思・判・表 A(1)ア】</p> <p>○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。【思・判・表 A(1)イ】</p> <p>○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。【思・判・表 A(1)ウ】</p> <p>学 ○進んで聞き手を意識して、学習課題に沿って話の構成や話し方を工夫し話そうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>言葉のきまり1 接続語 2時間(知技) 教: 4上p112～113</p> <p>文と文との意味のつながりや関係性を考えながら、接続語を適切に使うことができる。【知: カ】</p>	<p>①例文をもとに、接続語の順接と逆接の働きと使い方を確かめる。 ②その他の接続語について、働きを整理する。 ③接続語によって表れる意味の違いがあることを知る。 ④接続助詞を使い、二文を一文にすることができることを確かめる。 ⑤教科書の課題に取り組んだり、文作りをしたりして、接続語の役割について理解を深める。</p>	<p>知 ○接続する語句の役割について理解することができる。【知・技(1)カ】</p> <p>学 ○進んで接続語の役割を理解し、今までの学習を生かして、適切に使おうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>言葉のいずみ2 漢字のいろいろな読み方・送りかな 2時間(知技) 教: 4上p114～115</p> <p>複数の音読みをもつ漢字の読み方や、特別な読み方をする漢字、送り仮名の付け方について理解することができる。【知: ウ】</p>	<p>①例文を読み、複数の音読みのある漢字やその由来を知る。 ②教科書を読み、二字以上の漢字からなる熟語に、特別な読み方をするものがあることを確かめる。 ③訓読みは、使い方によって送り仮名の形が変わることを確かめる。</p>	<p>知 ○漢字と仮名を用いた表記や、送り仮名の付け方を理解することができる。【知・技(1)ウ】</p> <p>学 ○進んで漢字の読み方や送り仮名の付け方を理解し、今までの学習を生かして、言葉適切に使おうとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>
	<p>文章の書き方・まとめ方 文章のまとめりと分かりやすさ 2時間(書) 教: 4上p116～117</p> <p>分かりやすい文章になるように、内容のまとめりや一文の長さやまとまりを意識して文章を整えることができる。【知: ウ、カ、聞: イ、エ】</p>	<p>①例示された文を読み、気付いたことや、分かりやすい文章にするにはどうしたら良いかななどを出し合う。 ②例示された文を書き直す。 ③書き直したものを読み合い、他にも工夫できるところがあるかどうか、直す前と比べてどのような良さがあるか、などを話し合う。 ④これまで書いた行仕事文や感想文などから書き直したいものを選び、一文の長さやまとまりを意識して文章を整える。 ⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。【知・技(1)ウ】</p> <p>○段落の役割について理解することができる。【知・技(1)カ】</p> <p>書 ○内容のまとめりで段落をつくり、文章の構成を考えることができる。【思・判・表 B(1)イ】</p> <p>○目的を意識した表現になっているかを確認、文や文章を整えることができる。【思・判・表 B(1)エ】</p> <p>学 ○進んで文章の表現の仕方を確かめ、今までの学習を生かして、文章を整えようとする。【学びに向かう力、人間性等】</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	言葉のひびきやリズムを楽しもう 短歌 4時間(知技) 教:4上p118~123 短歌に親しみ、言葉の響きやリズムを感じ取りながら、音読することができる。【知:ア】	①短歌が三十一音で作られていることなどの特徴を知る。 ②近代の短歌や百人一首を音読し、言葉の響きやリズムを楽しむ。 ③pp.120~121の①から④の手順に従い、選んだ歌と似ている点を見つけ、発表し合う。 ④百人一首の中から気に入った歌を選び、音読したり、感想を伝え合ったりする。	知 ○短歌の特徴をつかみ、言葉の響きやリズムを感じ取りながら音読することができる。[知・技(3)ア] 学 ○進んで短歌の特徴をつかみ、今までの学習を生かして、言葉の響きやリズムに注意したり風景を想像したりして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
10月	5 問題解決のために話し合おう 安全マップを作って話し合おう 6時間(話聞) 教:4上p124~129 「安全マップ」を作るために、集めた材料を比較・分類し、互いの意見の共通点や相違点に着目しながら、安全な登下校をするための方法についての考えをまとめることができる。 【知:キ、話:ア、オ、イ、ウ】	①学習のめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②グループごとに調べた通学路の危険な場所を出し合いながら、地図に書き込み、疑問点について調べる。 ③危険の度合いについてより詳しく話し合い。対応方法を考えて、地図を完成させる。 ④安全マップをもとに、グループごとに発表する。 ⑤それぞれの発表をもとに、通学路の危険の特徴について話し合う。 ⑥発表をもとに話し合いの柱を決め、クラスで話し合う。 ⑦学習を振り返り、話し合いで大切なことをまとめる。	知 ○丁寧な言葉を使うことができる。[知・技(1)キ] 話 ○目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] ○目的や進め方を確認しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。[思・判・表 A(1)オ] 学 ○進んで共通点や相違点を考え、問題解決に向かって話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	3年生で習った漢字 言葉をつないで文を作ろう 1時間(書) 教:4上p130 3年生までに配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。 【知:工、書:エ】	①教科書の絵を見て様子想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

<p>伝えよう 感謝の気持ちを話そう</p> <p>p □</p> <p>知 話</p>	<p>①モデル文を読み、感謝の気持ちをもとにスピーチするという課題をつかむ。</p> <p>②話す事柄を決め、スピーチの組み立て（対象となる人、出来事や理由、自分の思い）を考える。</p> <p>③話す場面を意識して、抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話す。</p> <p>④友達のスピーチをもとに感想を伝え合い、自分の思いを深める。</p> <p>⑤学習の振り返りをする。</p> <p>⑥二分の一人式を行う場合は、スピーチ内容を手紙形式にまとめる。</p>	<p>知 ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。[知・技 (1)イ]</p> <p>話 ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア]</p> <p>話 ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ]</p> <p>話 ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。[思・判・表 A(1)エ]</p> <p>学 ○進んで身の回りの人との関わりの中から話題を決め、今までの学習を生かして工夫して話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>漢字の広場 2</p> <p>□ p</p> <p>知</p>	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。</p> <p>②新出漢字の意味を確かめ、書く練習をする。</p> <p>③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p>知 ○第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技 (1)エ]</p> <p>学 ○進んで4年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>3年生で習った漢字 言葉をつないで文を作ろう</p> <p>p</p> <p>知 書</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。</p> <p>②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。</p> <p>③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。</p> <p>④友達と読み合い、主述の関係や表記の仕方、漢字などが正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)エ]</p> <p>書 ○間違いを正したり、目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。[思・判・表 B(1)エ]</p> <p>学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>これからのあなたへ ぼくが ここに</p> <p>p □</p> <p>読</p>	<p>①「ぼくがここに」の情景を想像し、対比表現や倒置法などの表現の工夫を楽しみながら音読する。</p> <p>②詩から受け取った作者の思いを想像し、感想を交流する。</p> <p>③学習の振り返りをする。</p>	<p>読 ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。[思・判・表 C(1)オ]</p> <p>読 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。[思・判・表 C(1)カ]</p> <p>学 ○進んで作者の思いを想像し、今までの学習を生かして自分の体験と結び付けながら読もうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
<p>四年生をふり返って</p> <p>p □</p> <p>知 書</p>	<p>①一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことやこれからも続けたいことを友達と話し合う。</p> <p>②書くことをメモに書き出し、簡単な構成を考える。</p> <p>③一年間を振り返る文章を書く。</p> <p>④友達と読み合い、感想を伝え合う。</p> <p>⑤学習を振り返り、これからの学習について話し合う。</p>	<p>知 ○敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。[知・技 (1)キ]</p> <p>書 ○内容のまとまりで段落をつくらったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。[思・判・表 B(1)イ]</p> <p>書 ○文章に対する感想や意見を伝え合うことができる。[思・判・表 B(1)オ]</p> <p>学 ○積極的に一年間で学んだこと思い出し、今までの学習を生かして文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>